

2年生国語科

単元名 「詩を読み味わおう」(2時間)(教材名 詩「見えないだけ」)

1. 単元の目標

- 抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、一語一語に込められた作者の思いや意図を理解し語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。(知識及び技能)
- 詩を読み、理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思考力・判断力・表現力等「C読むことオ」)
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、詩に親しみ、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・抽象的な概念を表す語句や類義語を用いて詩を創作することで語感を磨き、語彙を豊かにしている。	・詩の主題を理解し、考えたことを知識や経験と結び付け、詩の表現やリズムに則って一部を創作することができる。	・構成や表現の工夫に気づこうと繰り返し読んで気づいたことを、書いたり発表したりしている。

3. 指導と評価の計画

単元のめあて 作者からのメッセージを受け取って自分の言葉で表現しよう

時	主たる学習活動	評価[評価方法]
1	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の見通しをもつ。 ○詩を、朗読・音読を通して鑑賞する。 ○感想をノートに書き、交流する。 <p>【めあて】詩の内容を読み取り、筆者の思いに迫ろう。</p> <p>○表現技法や構成の確認と内容の読解。個人→発表</p> <p>【課題】第二連はどのように締めくくられるだろう。</p> <p>○読み取ったことを踏まえて詩の一部をリライトする。(宿題)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●主体的に学習に取り組む態度(ノートの記述) ●知識・技能(ノートの記述) <p>挙手, 指名。 ミュート OFF にして発表</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の振り返りをする。 ○一部をリライトした詩を朗読する。 ○全体に発表する。(挙手) ○感想を発表する。(挙手) ○課題に対する考えを発表する。 <p>【まとめ】詩の主題に迫るには、表現技法や構成に着目し、情景を思い浮かべるようにして想像するとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●思考・判断・表現(ノートの記述)

4. 1時間の授業例(第1時)

題材 詩「見えないだけ」牟礼慶子

ねらい 既習事項を活かして表現技法や構成を理解することを通して、詩の主題に迫ることができるようになる。

展開

①準備物を確認し、前時の復習を行う。

二年生 国語 文法

めあて 形容詞・形容動詞の活用形がすぐさま使えるようになる。

復習

○形容詞の活用

かろ うくか いか いけれ ○

○形容動詞の活用

だろ にでだ だな なら ○

○次の形容詞(形容動詞)活用形を答えなさい。という問題が出たら

↓形容詞(形容動詞)の活用語尾に

⑤課題を提示する。

二年生 国語 詩

めあて 作者からのメッセージを受け取り、自分の言葉で表現しよう。

見えないだけ 牟礼慶子

空の上には
もっと青い空が浮かんでいる
波の底には
もっと大きな海が眠っている
胸の奥で
ことばがはぐくんている優しい世界
次の垣根で
番をさし出している美しい季節
少し遠くて
待ちかねている新しい友だち

課題 二連はどう締めくくられるだろう。

②単元のめあてと本時の流れを確認する。

二年生 国語 詩

めあて 作者からのメッセージを受け取って自分の言葉で表現しよう。

二年生の流れ

①鑑賞・音読
②初読の感想
③表現技法等の確認
④内容の読解
⑤課題に取り組み
⑥振り返り
⑦授業後の課題の確認

⑥指名し、詩の表現技法をまとめる。

二年生 国語 詩

めあて 作者からのメッセージを受け取り、自分の言葉で表現しよう。

見えないだけ 牟礼慶子

二連 六文 口語自由詩

空の上には
もっと青い空が浮かんでいる 対句
波の底には
もっと大きな海が眠っている 対句
胸の奥で 擬人法
ことばがはぐくんている優しい世界 対句
次の垣根で
番をさし出している美しい季節 対句
少し遠くて 体言止め
待ちかねている新しい友だち 対句

③詩を提示し、朗読を聞いた後音読練習をする。⑦指名し、詩の表現に迫る。

二年生 国語 詩

めあて 作者からのメッセージを受け取り、自分の言葉で表現しよう。

見えないだけ 牟礼慶子

空の上には
もっと青い空が浮かんでいる
波の底には
もっと大きな海が眠っている
胸の奥で
ことばがはぐくんている優しい世界
次の垣根で
番をさし出している美しい季節
少し遠くて
待ちかねている新しい友だち
あんなに確かに在るものが
まだここからは見えないだけ

二年生 国語 詩

めあて 作者からのメッセージを受け取り、自分の言葉で表現しよう。

見えないだけ 牟礼慶子

空の上には
もっと青い空が浮かんでいる
波の底には
もっと大きな海が眠っている
胸の奥で
ことばがはぐくんている優しい世界
次の垣根で
番をさし出している美しい季節
少し遠くて
待ちかねている新しい友だち
徐々に遠くのことを想像できるよ
あんなに確かに在るものが
まだここからは見えないだけ
現実にも心理的にも、今いる場所・臆病な心

④初読の感想をノートに書き、発表する。

二年生 国語 詩

めあて 作者からのメッセージを受け取り、自分の言葉で表現しよう。

②初読の感想

「優しい」「美しい」「新しい」という形容詞から、幸せな印象を受けた。

「もっと・・・」わくわくした気持ちになる。

「ここからは・・・」未来はきっと明るいよ、と言われていたよ。

「あんなに確かにあるもの」とは何だろう。

⑧課題に取り組み、まとめを行う。

二年生 国語 詩

めあて 作者からのメッセージを受け取って自分の言葉で表現しよう。

見えないだけ 牟礼慶子

靴箱の隅で
僕を待っているまはげいローファー

(例) 休校の終わりで
笑顔がはじける未来の私

ことばがはぐくんている優しい世界
次の垣根で
番をさし出している美しい季節
少し遠くて
待ちかねている新しい友だち
あんなに確かに在るものが
まだここからは見えないだけ

本時における「問い」の工夫

- ①学習者の生活や心情と関連づけるなど、学習者自身が引き受けたいような課題にする。
- ②詩の一部を創作させ、交流することで詩の読解へと導く。